



今こそ労働組合の存在価値を発揮しよう

**公共交通の社会的責務を果たし、
安全で安心感の持てる職場を実現する
東京政策フォーラム2019**

270名参加

地本代表作は

東京車掌区分会

2020まであと1年！成田エクスプレスを変革し、
オリンピック・パラリンピック輸送を職場からつくりだそう！

9月21日 滝野川会館大ホール

東京地本は、9月21日「公共交通の社会的責務を果たし、安全で安心感の持てる職場を実現する」のコンセプトワードを基に「東京政策フォーラム2019」を開催しました。今年の政策フォーラムは「労働組合を何のために結成しているのか」「誰のための労働組合なのか」を改めて確認し、職場の意見・要求を政策提言に高めていくことをめざし、6機関から発表がありました。

第1セッションでは「施策に立ち向かうのは労組の役目！鉄道の本業と向き合い、現場を知り尽くした組合員の英知で安全で品質の高い鉄道輸送をつくりだそう！」をテーマに職場で発生した事象の影に存在する「正常性バイアス」の問題や、2020オリンピック・パラリンピックに向けて、課題となっている営業職場や特急列車の現状が提言として出されました。第2セッションでは「労働の特殊性を考慮し、職場現実を踏まえた労働安全を堅持するために労働者の権利意識と東労組の存在価値を高めよう！」をテーマに、安全で働きやすい職場の実現に向け、過半数代表者選挙のたたかいや安全衛生委員会の活用、乗務員勤務制度の問題など、職場で直面している問題について提言が出されました。

討論では、鉄道の本業業務に立ち向かうこと、現場を知り尽くした組合員の英知で安全で品質の高い鉄道輸送をつくり出すこと、労働の特殊性を考慮し、職場現実を踏まえた労働安全を堅持していくことなどを議論し、提言内容を深めてきました。

東京地本は、健全なJR東日本会社をつくるために施策に向きあい「組合員のための組合運動」をぶれることなく、実直に推し進めていきます。そして、組合員からの信頼や期待が寄せられる東労組を再構築し、政策フォーラムの討論を基に、公共交通機関の社会的責務について議論を深め、安全で安心して働ける職場を創り上げていきます。

なお、本部フォーラムには東京車掌区分会の提言が代表作として選出されました。